研 修 視 察 報 告 書

　この度、東京都豊島区で行われたセミナー「議会のシティズンシップ教育と広報～対話・参加・協働の人づくり、まちづくり～」の参加概要について、別紙のとおりご報告いたします。

　資料その他については、事務局に保管してありますので、ご高覧ください。

令和元年１０月１１日

広報広聴委員会広報分科会

分 科 会 長　　奥山　豊和

副分科会長　　山形　健二

委　　　員　　加藤　勝義

委　　　員　　髙橋　聖悟

横手市議会議長　播磨　博一　様

令和元年度広報広聴委員会広報分科会 研修報告書

◆セミナー「議会のシティズンシップ教育と広報～対話・参加・協働の人づくり、まちづくり～」（７月１８日開催）

会場：東京都豊島区　アットビジネスセンター池袋駅前

【研修の概要】

本セミナーの講師は、日本広報協会・広報アドバイザーの吉村潔氏が務め、午前には「議会のシティズンシップ教育と広報」、午後は「議会広報紙クリニック」のセミナーが行われた。

このセミナーは、東京と京都で開催されているようだが、東京会場のセミナーには、遠くは長崎や高知、広島県からも参加者がおり、また、議員だけではなく、事務局職員も多数参加していた。

【議会のシティズンシップ教育と広報】

午前中に開催された「議会のシティズンシップ教育と広報」のセミナーでは、広聴活動の一環として、議会広報紙などを活用し議会活動への市民参加を促進している各地における事例や、若年世代への主権者教育などの取り組みについての事例の紹介などがあり、大変参考になった。

議員のなり手不足が全国的な問題となり、先に行われた国政選挙でも投票率が過去最低水準となるなど、政治への興味・関心がなかなか高まりにくいなか、議会活動への市民参加や若年世代への主権者教育が、これまで以上に重要な課題となっていくように思われる。

なお、講師の吉村氏からは、

・ここ数年、多くの議会で主権者教育に力を入れてきている
・子どものころから政治を意識させることが重要
・比較的政治に関心が高い傍聴者でも、約半数が議会の内容を「よく分からない」と回答している
・議会改革などを進めていても、その取り組み内容は市民に浸透していない

など、議会に対する実情について説明があり、それらを改善するものとして大きな力となるのが広報紙（議会だより）であるとの話があった。

また、セミナーでは、全国の議会広報紙の内容から、数多くの先進事例を知ることができた。その内容を広報広聴委員会で情報を共有し、委員会全体で取り組んでいくべき課題と感じた。

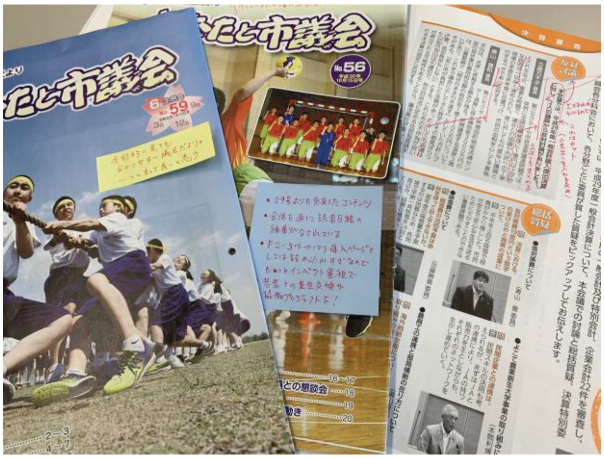
当市でも議会報告会やＹ８サミットなどの取り組みを行っているが、この先進事例を参考にして、より議会活動への市民参加が促進できる当市の実情に合った取り組み

を模索できるようにしたい。
※講義内容のまとめは別紙資料を参照

【広報紙づくりの基礎知識×クリニック】

午後に開催された「広報紙づくりの基礎知識×クリニック」では、講師の吉村氏より、「議会で取り上げられた議案などをただ漫然と掲載するのではなく、住民にいかに理解を求めていくか、編集していくかが重要」との話があり、住民が求めている情報に選択・集中して記事を掲載していくことが必要だとのことであった。

購読者についても、市民全体をターゲットとすると伝わりにくいものになってしまうことが多いため、高齢者や子育て世代など、ある程度特定の層をターゲットとすることでより良い議会広報紙ができるとの話もあり、非常に参考になった。



また、今回のセミナーでは、あなたと市議会（No.56・60）について、講師から添削いただいき、修正ポイントなどについて指摘いただいた。

今回のセミナーで学んだことを踏まえ、より伝わりやすい、分かりやすい、市民に親しまれる議会だよりを作っていくようにしたい。
※講義内容のまとめは別紙資料を参照

《研修を終えて　～委員の所感～》

■奥山　豊和分科会長

【議会のシティズンシップ教育と広報】

18 歳選挙権の導入以来、流行りのように行われている主権者教育について、議会広報の視点から様々な先進的取り組みを学ぶことができた。教育委員会や選挙管理委員会に協力するかたちから、議会主導に転換する時期にきており、いわゆる「子ども議会」のあり方について、今後考えていかなければならないように思う。

広報というのは単なる「情報発信」ではなく、あくまでも手段であって目的ではない。何のためにやるのかという視点が大切だという指摘があった。まずは手に取ってもらうための前提条件として、どんな表紙にするべきか。高校の写真部や美術部の生徒と協力してロゴマークや表紙のデザインを考えていくのは、協働の一つのかたちと言える。開いた時に興味を引く編集とはどうあるべきか。中途半端に議会情報を羅列するよりも、誰に何を伝えたいのかを意識して、特集記事を絞り込んでいくことの重要性を再認識した。

発信の前提には市民の声がある。今後も広聴と広報が緊密な連携を図りながら、情報の取捨選択とポイントを絞った解説、定例会を俯瞰した編集を心掛けていきたい。

【広報紙づくりの基礎知識×クリニック】

私たちは議会広報に取り組む上で、興味を引き出す工夫をしながら、市民目線で分かりやすい、市民と議会が双方向の紙面づくりを心がけてきた。

講師の先生から、「全国的にみても分かりやすい議会だよりの一つと言っていいと思う」という評価を頂いたことには、私たちがこれまで意識して取り組んできた方向性に確信を持つことができた。

特に、見出しの重要性や QR コードを活用したホームページとの連携。余白・写真の活かし方、行政視察で学んだことをどう活かしていくかといった流れの分かりやすい紙面構成は、今後も引き継いでいくべきと考える。

やはり、インパクトのあるタイトルは中身への誘導に繋がるということで、「○○について」では興味を引くことはできない。「読者に対して語り掛けることを意識する」という指摘は、見出し付けにとどまらず、紙面づくり全体に通じる心掛けであるように感じた。

議案名の羅列では、読者は興味を抱いてくれない。会議の名前を箇条書きにするような情報発信では、私たちが掲げている「双方向の紙面づくり」という理念に反することからも、抜本的な改善を目指していきたい。

■加藤　勝義副分科会長

【議会のシティズンシップ教育と広報】

シティズンシップ教育は様々な場面で行われてきているが、研修を受けて議会との関係では以下のことについて感じた。

１．横手市では Y8 サミットなど開催されているが、そのためには日々中学生に対し

て議会情報を発信し続けることが大切。その発信源は議会だよりであったり、SNS であったりであるが、大切なのは見ていただける、そして読んでいただけるものでなくてはならない。

２．シティズンシップ教育は、中学生のみならず、小学生、高校生、大学生なども含めて、教育委員会や行政、民間団体と連携の充実が求められる。

３．議会だよりは、住民目線で読みやすく、わかりやすいことに尽きる。既成概念にこだわらず、余白の使い方、写真を大きく使ったり、文章の短文化・ビジュアル化により思い切って簡潔に理解できる紙面づくりを実施する。若者や学生が多く利用する、モバイルデバイスの小画面での情報発信のしやすさにもつながる。

【広報紙づくりの基礎知識×クリニック】

すべてを横手市議会の議会だよりに取り入れるということではない。多方向からの見方や感じ方がある中で横手市議会だよりの独自性や分かりやすさをどのようにして作っていくのか、このクリニックは一つの提案と受け止めている。

各自治体の議会広報はページ数や紙面サイズ、色使い、編集作業のシステム、予算などすべてが異なる。横手市議会ならではの紙面づくりを目指していくことの必要性を再認識した。

クリニックの最後に、「全体的には多様性のある、そして分かりやすい議会だよりの一つだと思う。」と講評を得たのは嬉しかった。

■髙橋　聖悟　委員

議会広報作成には長らく従事しているが、企画編集の基本を本格的に学んだのは今回が初めてである。

熱意を込め満足を得ながら発行してはいたが、クリニックにおいては指摘される部分もあり、修正しないといけない部分もあると感じた。

特に、今更ではあるが、数字表記の基本、文字組みの基本の講義における基本的な説明に知らないことが多数あったことは、編者の一員として知識に欠けていると痛感した。

そのほか、講師より、センテンスの長さや切り方のコツ、紙面の中における主語の考え方、写真と色づかい等、他自治体の広報誌を例にとり、指摘と評価を交えながら講義していただいたことは、大変参考になった。

横手市議会としては、クリニックは2回目であるそうだが、時をおいて再々度クリニックを受けるのも手かもしれない。充実した広報を作るためには。

最後に、今回のクリニックした成果を早速の9月議会での紙面作りにいかいていきたい。年々向上はしていると思うが、さらに市民に手に取ってもらえ、読みやすいモノにしていきたい。

■山形　健二　委員

【議会のシティズンシップ教育と広報】

議会のシティズンシップ教育は、これまでの執行部や教育委員会への協力から議

会主導へと変化していくことが必要ということだった。
現在の横手市議会の取組みとしても、Y8 サミットや様々な市民との意見交換会、議会報告会など行っているが、ちょうど今が変化の時だと思う。
ワールドカフェ方式の研修等を経て、議会報告会の形も意見交換会の形に変わってきており、Y8 サミットも発表会と思えるものから、今年は議会と一緒に考え、市長への政策提案をし、政策実現を目指すものに進化してきている。
セミナーでの先進事例では、高校生との意見交換会から請願・陳情へとつなげたり、大学生との協同プロジェクトにより政策提案やまちづくりを考える議会もあった。横手市議会も同じ方向性で動いており、今回の資料を参考に前に進めていけば良いと考える。

【広報紙づくりの基礎知識×クリニック】

広聴の取り組みは、いろいろとやってみて初めて見えてくるものもあるだろう。失敗の事例なんかもあればもっと参考になったと思った。
広報紙のクリニックについては全国的にも読みやすい議会だよりの１つとの評価を戴いた。リニューアル以降間違いなく読みやすくなっていると編集会議をしながらも感じている。
まだまだ文字数が多いとのことだった。もっと絞って伝えていく形が良いかと思った。議会の全部を書いたところでほとんどが読まない。情報発信のためのものではないとのことだった。
決まった形ではなく、開いたら見出しやタイトルばかりが大きな文字であって、詳細は他のページに小さく書いてあるような。漫画や写真がメインで文字がないとか。もっと遊びのある議会だよりでもいいのではないだろうか。
クリニックに関しては以前に研修で行った会議録センターの方がじっくりと講評してもらうことができ、優秀な各地域の議会だよりの良いとこ取りができたので良かったと思う。他議会の議会だよりも見ることができ参考にはなった。

以上、報告いたします。

【議会のシティズンシップ教育と広報】講義内容まとめ

【表紙の見せ方】

・市民を登場させている

・親しみやすさ

・市民参加

・タイトル、ロゴ字体なども親しみやすく

【議会との協働の仕方】

議会、行政、教委で連携

⇒NPO・民間団体が協働支援するケース増加

⇒議会が主導して行政・教委を巻き込む

【シティズンシップ教育の例】

これまでの取り組みをさらに発展させ、実際に請願・陳情につなげたケースも

[小学生]

・親子で議場見学（初めて議場を見学した親も多く、新たなアプローチに）

・委員会傍聴時に身近なテーマを取り上げ、どのような議論がされ決定したかのプロセスを理解してもらう

・子ども議会ページを単独のページ構成とし、その部分だけを増刷して児童に配布なども可

［中学生]

・QR コードを活用し、子供たちも子ども議会の様子をみられるように

・子ども議会の開催前にリハーサルを実施

・中学生が首長、議長、議員役を自分たちで行い、質疑⇒討論⇒議案提出

[高校生]

・高校生議会の参加者を公募で募集

・充実した内容の高校生との意見交換会プログラム

⇒紙面で交換会の様子をステップごとに分け、紙面で分かりやすく見せる

[大学生]

・常任委員会傍聴後に座談会を開催

⇒議論されたすべての議案を掲載するのは NG。主権者教育としての特集ページで大胆な PR を

・インターンシップの受け入れ

⇒若者とのアウトリーチ（住民との新しい接点を求める普及活動）の手法として増加傾向

【シティズンシップ教育から協働へ】
・高校生の意見を一般質問に反映⇒紙面でもその部分を強調して紹介
一般質問の結果を紹介⇒議会活動につなげる⇒高校生の関心 UP
・高校生が地域住民からの意見を聴くなどのフィールドワークを行い、その後グループワークを行って陳情書を作成。5 つの請願を提出⇒うち 2 つが採決された
体験⇒参加
・高校生と議員の意見交換会
テーマはひとつに絞る　（例：読みたくなる議会だよりとは）
⇒大人では出ない意見が出てくることも
・議会と大学生の協働プロジェクト
フィールドワークを通して大学生と議員が意見交換⇒議員が意見交換をもとに一般質問
⇒その様子を大学生が見学⇒大学生と議員が意見交換

【さまざまなアプローチ】
・議場の開放（自習室として開放）
・若年世代向け議会広報紙
・表紙ロゴ、イラストの公募
・議会案内パンフの作成協力

【議会活動と広報の役割】
ステップ 1・理解　⇒　ステップ 2・共感　⇒　ステップ 3・協働
※広報＝情報発信だが、広報の目的は、ステップ 1「議会の役割・活動への理解と関心を深める」こと

POINT①「読者の関心を高める」
◆手に取り、中を開きたくなる表紙
　⇒表紙には伝えたいことを目立つように。興味をそそるタイトル。目次は小さくてもよい。
◆読者が興味を持つ内容
　⇒読者ターゲットの設定を(「みんなに読んでもらう」だと内容は薄くなる。伝わらない。)
◆市民の暮らしに関わる、市民（ターゲット）の関心の高い定例会の争点を特集
　⇒議案を順に掲載はNG。その定例会だけの内容にする必要はない。市民の知りたいことは、なに？

POINT②「わかりやすい、読みやすい」
◆ポイントを絞った開設
　⇒掲載する議案の取捨選択（すべての議案を載せる必要はない）
　⇒あくまでも住民目線で掲載する議案を絞り込む。情報の量が多すぎると伝わらない。
◆見出しを具体的に
　⇒質問の主旨、条例の変更点がすぐにわかるように（「○○○について」はNG）
◆短文化・ビジュアル化
　⇒イラストなどを用いてイメージしやすく（文字は読んでもらえない）
◆市報との違いを意識する
　⇒予算の記事など同じような内容になりがち。議会だから書ける内容に

POINT③「議会活動の見える化」
◆審議や議決までのプロセス
◆議会の政策、改革、自己評価
◆会議規則等の広報
◆議会ICT

POINT④「定例会以外の情報の充実」
◆閉会中の活動の広報
　委員会レポート「なぜ（現状)」「何を」「どうする（まとめ)」
◆「その後」を追跡
　一般質問や、請願・陳情のその後を報告
◆トピックス・連載
　アクセントとなる連載企画⇒読む動機付けになる

POINT⑤「住民参加・協働」
◆議会報告会・意見交換会

⇒集中した意見ベスト 5、地域ごとの意見などで編集

⇒議会報告会・意見交換会の内容が市政に反映されることを知ってもらう

◆広報紙での広聴企画

⇒議会報告会・意見交換会の楽しそうな雰囲気、こんなことを言っても OK なんだという雰囲気を伝える

◆議会と住民の協働

⇒住民の顔・名前を出すことで建設的な意見が出やすい。広報的にも読みやすい。

広報紙づくりの基礎知識×クリニック】講義内容まとめ

【企画・編集のプロセス】
① モチーフ⇒テーマ・対象コンテンツ
② 切り口⇒軸足の設定・情報の編集
③ ストーリー⇒ページ構成・展開の手法
狙いに沿って企画の切り口を決める⇒※切り口がないと、ただの説明になってしまいがち
キーワードを書き出して情報を整理
"テーマ/分母"・"分子/テーマ"⇒テーマをどっちに持ってくるかで切り口が変わる

※広報紙が変わると、議会が変わった（議会改革している）ように見える
⇒議会改革を進めても、住民にはその内容はなかなか届かない。広報紙が変わることで、住民には議会が住民のために頑張っているように映る。

【数字表記の基本】
△2,525,000,000 円
×2525000 千円（読者には不親切）
◎25 億 2500 万円（新聞などでの表記方法）
○25 億 2,500 万円

×10～200ｍ（10 の単位が分かりにくい）
○10ｍ～200ｍ

文字を大きくしても行間、文字間が詰まってしまうと読みにくい
タテ組の場合は文字のポイント数の半分の行間が目安（例：文字 10 ポイント、行間 5 ポイント）
ヨコ組の場合は行間が若干狭くても OK（例：文字 10 ポイント、行間 4 ポイント）
カコミの記事でも余白が必要（10 ポイント程度）

【文章の短文化】
⇒一文が長くなると、主語と述語の関係が分かりにくくなる

【興味を持ってもらうタイトルのテクニック】
◆日常のさりげない言葉を使う
「俺ってメタボなん？」「ねえ、選挙　行く？」
◆読者への語りかけ

「いのちを守る準備、できていますか。」「このハンドル、手放せますか」
◆内容が気になる、知りたくなるキーワード・キーセンテンス
「特集　おしっこと健康」「特集　あなたの知らない学校の生活」
※タイトル、見出し、写真が重要

【色使い】
◆色づかいを整えるのが基本
同系色⇒調和、安定感
タイトルに彩度の高いものを使ったら、見出しは同系色で彩度の低いもの

【色づかいのテクニック】
◆ワンポイントだけに色使い
◆同じカテゴリーの話題を同系色にする
◆色の持つイメージを活かす

【グラフの作成テクニック】
◆グラフの線を細くすること軽快なイメージに
◆グラフの直近のデータだけを色濃くすることで見えやすく
◆グラフだけでなく、文字での説明でより分かりやすく

横手市議会だよりについてのクリニック内容
議会だより（全般）についてのクリニック内容
・表紙タイトルは次回リニューアルの際に見直したい
・全体をとおして読者目線の編集がされている
・P2-3 は内容を詰め込みすぎ。もっとインパクト重視で
・若者との意見交換や協働プロジェクトを取り入れては
・QR コードの活用もよい
・「シリーズ Y8」は大変よい企画
・「議会の主な動き」は掲載項目が多いがトピックがあるのでよい。トピックだけの掲載でもよいのでは。

議会だより（No.56）についてのクリニック内容
・「先進地から学ぶ」内容がよく整理されており、視察の意義も伝わる。
　⇒報告の各項目（ここで言う「導入部」、「ポイント」、「視察を終えて」の項目）の文章量が同じくらいになるようにしたほうが良い
・「議員と語ろう」には要望だけでなく、議論もあるといい
　⇒詳しいやり取りを議会ホームページで紹介し、QR コードで誘導することも検討
・「議会報告会・意見交換会」の内容は裏表紙に掲載し、もっと目に付くようにしてもよい

議会だより（No.59）についてのクリニック内容
・表紙写真に複数の人が出てくる場合でも主人公を設定するとなおよい
・議案が選択されて取り上げられているのはよい
・P2 のタイトル「僅差により値上げ」など短く
・大見出しと小見出しの内容がダブっている
・討論した内容の先頭に見出しがほしい
・「一般質問」は短文化されていてよい。写真をもっと大きくしてもよいのでは。
・「一般質問」の最初の見出しは、最初の Q&A とダブるので不要
・「委員会審査報告」に掲載している写真が内容とマッチしていてよい。
・請願されたものを委員会で審議したことが分かる記事になっていてよい
・「議会トピックス」の内容が分かりやすくてよい
・行政視察の全体の視察テーマと、議会で受け入れた視察テーマが分けられているがよい
・視察テーマトップ 3 の紹介は大変分かりやすい

◆他議会紙でのクリニック内容
大村市議会だより
　・表紙にあるトピックをもっと目立たせたほうがよい

・議会の動きでは、主な動きだけを選択して取り上げられていてよい
・もっと市民参加型の紙面に
・記事の見出しが具体的でよい
・市民の関心がある内容が選択されていてよい
・イラストと写真の使い方に工夫を
・議案をそのまま掲載せず、分かりやすい内容
・一般予算の概要の説明が長くて読みにくい。行間も狭い。
⇒①～～～、②～～～、③～～～などに分けて記載するなどの工夫を
・予算審査の記事に「議員からの質疑・意見」があり、市報と差別化されている
・議案の賛否意見の記事のスペースが横に長すぎる
・一般質問の紙面校正が議員ごとに均等なスペースになっているのがよい
・同じ議員が2回掲載されているのはNG

高知県議会だより
・表紙写真が固いイメージ
・定例会の概要に内容を詰め込みすぎ。もっと内容を絞って掲載したほうがよい
・臨時会の概要が事務的な報告となっているので改善が必要
・写真の位置がバラバラになっているので改善すべき
・答弁内容のワンセンテンスが長いので短文化するべき
・文章でやり取りを記載するのではなく、質疑・応答を分けて記載したほうが読みやすい
・行間がせまく読みにくい
・議案をあれこれ載せても読まれないので、掲載する議案を選択したほうがよい

りふ議会だより
・表紙のカラー（町民が親しみを持つイーグルスカラーを使用）
・議員氏名にルビを付けている
・同一ページでタテ・ヨコの見出しを使い変化を持たせている
・議会の歩みをすごろく風に紹介。「りふ」の文字が隠されているなどの遊び心も
・議会の歩みの紹介の下部分に「議会傍聴の案内」。記事の関連性がない
・追跡レポート「あの提言はどうなっているの？」を毎号掲載

ふくやま市議会だより
・代表質問の掲載スペースが会派議員数により増減⇒スペースが少ない会派は発言をしていないとの印象を読者にあたえるおそれ
・大学での議会報告会に参加した学生のコメントもあればよい

富士宮市議会だより

・ヨコ組みのレイアウト。数字の記載がしやすい反面、タイトルの組み方が難しい
・一般質問の見出し「○○○について」を、質問の主旨が分かる見出しにしたほうがよい
・総括質疑の項目がほとんど文字だけ。目立たせる工夫を。

草加市議会だより

・カラー写真を白黒写真にすると写真のイメージが変わるので、白黒コピーなどであらかじめ白黒写真にした時をイメージするなどしてみては
・写真の中には文字を入れない方がよい
・委員会メンバー紹介記事に委員会の任期も記載があればよい
・「ドキュメント初議会」市民に議会の流れが伝わりやすい
・議員の紹介の際にも、親しみを持ってもらえる仕組み（写真）や政策を紹介できればよい